

氏名	原賀 順子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6238 号
学位授与の日付	2020年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Molecular Characterization of Second Primary Endometrial Cancer (重複癌としての子宮体癌の分子学的特徴)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 平沢 晃 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

子宮体癌は、発がんに関連する環境・遺伝因子が他癌腫と共通しており、二次癌として重要な癌腫の一つである。子宮体癌は分子学的網羅解析から4群に分類されることが知られている。本研究では一次子宮体癌（がん既往のない子宮体癌）294例と二次子宮体癌（がん既往のある子宮体癌）32例について、臨床病理学的・分子学的特徴を後方視的に検討した。分子学的解析は、ミスマッチ修復タンパクとp53の免疫染色、およびPOLE遺伝子の遺伝子解析を用い分類した。一次子宮体癌と二次子宮体癌を比較すると、脈管侵襲が二次癌により多く認められたことを除き、臨床病理学的・分子学的特徴に有意差を認めなかった。一次癌から二次子宮体癌までの時間が10年以上の症例は、10年より短い症例に比して予後不良因子（typeII, 深い筋層浸潤、頸管浸潤、p53過剰発現）を有していた。子宮体癌の臨床病理学的・分子学的特徴は、がんの既往の有無による明らかな差は認めなかったが、一次癌から10年以上が経過した子宮体癌は予後不良である可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、子宮体癌について検討したものである。一次子宮体癌（がん既往のない子宮体癌）294例と二次子宮体癌（がん既往のある子宮体癌）32例について、臨床病理学的・分子学的特徴を後方視的に検討した。分子学的解析は、ミスマッチ修復蛋白とP53の免疫染色、POLE遺伝子の解析を行った。一次子宮体癌と二次子宮体癌を比べると脈管侵襲が二次癌により多く認められたことを除き、臨床病理学的・分子学的特徴に有意差はみられなかった。一次癌から二次子宮体癌までの時間が10年以上の症例は、10年未満の症例に比して予後不良因子（Type II, 深い筋層浸潤、頸管浸潤、P53過剰発現）を有していた。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、子宮体癌に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。